

世尔然丁時報

暗鬱なる政界風景

公正施行の期待能くも真物らぬ... 不正選挙に對する怒聲の未だ絶へざる今日、又して起る喧嘩、

現ワスト中央政府は甚々たる輿論... 不正選挙に對する怒聲の未だ絶へざる今日、又して起る喧嘩、

一月の亜国貿易

出超一億七千万ペソ... 貿易額は二億八、一五五、〇〇〇ペソ、昨年一月の

米南のデニリ事件

亞国名家の予息誘拐さる... 亞国名家の予息誘拐さる、

贈呈記念品寄附記録

収入部 六四七、〇〇〇... 支出部 六四七、〇〇〇... 合計 六三七、〇〇〇

御案内

并呈送々御清祥大段奉慶... 御案内、

告示(第三号)

三月一日より当館執務時間... 告示(第三号)、

在亞日本諸小学校

在亞日本諸小学校... 在亞日本諸小学校、

各區

各區、

在亞日本諸小学校

在亞日本諸小学校... 在亞日本諸小学校、

御案内

御案内、

在亞日本諸小学校

在亞日本諸小学校... 在亞日本諸小学校、

一府十二縣に亘る戦慄！ 黒色ニテ口の大陰謀

二月十日
報道
解禁

曰く無政府共産党根拠地未だ
らば、豫定取調へから敢ての輝
兵に警備設備したと見らるる
左翼系陣営内は昭和六年以来
東京に主体を置き長野県農村
に秘密結社「農村青年社」を
結成アナイキスニ奉ずる者
年達中心にまづ信州地方を
中心に日本全国に黒色革命の
流布に着手し入主とする大陰
謀計画を遂げ進め、あると
探知した警察当局は内務省の
指揮下に一月十七日同県果
主中心に全県警察網を総動員
して一味を一掃検査を行つた
同時に、新聞記事一切を禁止

豫内 信州中心に武装蜂起 恐るべき都市焼却計画

無政府、農村青年社事件 檢挙三百余名豫密終結

無政府共産結社「農村青年社」
の陰謀内容はつき中心地たる長
野地方裁判所江崎検察官手取調
べによる豫密終結決定書の内容
は次の如くである。

豫密決定書に記載された運動の内容

青年」を始め「無政府主義研究」
「黒色農民新聞」「農民の友」等
発行し全国的に働きかけて同志を
叫合し北は樺太、南は台湾、更に朝
鮮に至るまで殆ど全日本を占り、更
に海内同志と連絡をとり活動分子
三百余名を獲得したが、その影響
下の労働者、農民は千数百名に達
した。先づ運動の連絡統制のため
に表面の事務所を東京市下目黒九
三〇番地に設けて去荷及び世人の
注意を引くアゲトを設け、所置
いて地方同志と連絡をとり無政府
主義特約の執拗な運動を遂行す
べく、運動の動機を次の観
念に於いてその理想を實現するに
する。

行動の綱領を
何に為すべ
きか」と懸するパンフレット十部を
発行し全国同志に郵送して其の意
趣につとめ

(四) 同六年五月下旬より六月十日頃
まで東京市目黒区内鈴木崎之方
に於て鈴木、宮崎外一名が合右結
社の

我々の社会 情勢はコシテ
シの指導下に共産
主義運動が活発で一面右翼ファッ
シの運動が抬頭し社会革命は共産
主義がファッシヨの何れかの手中に
奪取せられんとし無政府主義運動は
全く凋落の一途を歩みゆくべし
に至り此種急を挽回し強力を発揮
運動を展開するに必要から鈴木、宮
崎による発展的理論に基き組織
論に準據し農村青年社を結成した
が、その運動方針は大正十五年組
織した全国労働組合自由聯合会並
に黒色青年聯盟が日常指導を担
撃して軍事的暴力行為を以て主義
としたるため大衆から浮離し、他
の破壊主義、暴力団化するに至
り無政府主義革命のやきは到底遂

方行動による同志獲得並に連絡を
協議決定、該決定に基き同月下旬
より三月下旬は直り愛知県、大阪府
長野県等に巡回し精成メンバー獲得
に狂奔

(四) 同六年五月下旬より六月十日頃
まで東京市目黒区内鈴木崎之方
に於て鈴木、宮崎外一名が合右結
社の

行動の綱領を
何に為すべ
きか」と懸するパンフレット十部を
発行し全国同志に郵送して其の意
趣につとめ

(五) 同六年十二月頃「我國は於ける革
命の進行に就いて」と題するパン
フレット百部を發行各府県一名乃至
二名の農業者員約七十名に郵送、
是派に革命進行の活動を奨励せし
むべく努力

(六) 同六年八月十五日東京市野区
野方町の宮崎方は於て合会、長
野県小県郡大門村を中心には連年
命を履行すべく鈴木、宮崎、松本、
坂、鉄橋、藤道の破壊、長野、松本、
上田、諏訪等重要都市の焼却並
に之が資金獲得其他具體的実行方
針を協議決定する等其の組織の治
動に従事し以て「農村青年社」を組
織し其の目的遂行の爲にする行
動を遂行したものである。

指導者の年次
鈴木(三五)、宮崎
(三八)、野野(三三)、八木(四五)宮崎の情
緒、望月(二六)

外相有力候補者 大隈 佐藤尚武は語る

(香港廿三日) 外相候補者として有力視される駐米大使佐藤尚武は廿三日朝、蘭園文で香港に寄港。左の如く語つた。

政府が外務大臣に就任して何年交際を交けておられるかと問はれ、私と外交官生活三十年に及り大使の職務を最白多とありながら、この誘引、選して後、道を開きたいと思つてゐる。然し私として国家内外の非常時局に際するの外交方針に就ては意見を持つてゐる。方針に就ては意見を持つてゐる。方針に就ては意見を持つてゐる。方針に就ては意見を持つてゐる。

と共は今晩及び死亡に際して一定の給付を行はんとするつもりで、保険料の主体は自治團體なる國民健康保険組

音福へ東大労働

救済制度確立の爲め 國民健康保険法案 今議會へ提出

(東京廿四日) 労働大家の救済制度確立を目標とする國民健康保険法案は廿四日の委員會議で、今議會提案正式決定した。内務省は同日直に議會提出の手続を了つた。本法案は國民を始め一般國民の貧病及び疾病に際し診療を受ける

東京商業會館新會頭は 大倉 門野重九郎の

(東京廿三日) 東京商業會館新會頭は前會頭結城實太郎大藏大臣に就任した。會頭を失つたが廿一日選挙を終り、新會頭を決定した。門野重九郎は

！ 定況々 愈

オリピック競技場は 擴張改造の神宮外苑

(東京廿三日) 廿三日午二時より文部省官邸で開かれた第十二回オリピック組織委員会第十次

廢止されるか 拓務省 目下考査中

林首相議會で答弁

拓務省の擴張改造は小委員会に基き、林首相が東京市希望として、將來少々の修正を加へ得る保留条件を附して採決し、左の如く滿場一致で可決決定された。

シヤムへ再度の大進出 汽車の大量注文を受け 鉄道省ホク

(東京廿四日) シヤム國鉄の招請で昨年六月の段階で三百台の貨車材料を携へて渡暹中であるが、暹羅省の多田、皇朝技師はこの程進出を始めて開始した。帰朝土産に前年にと増して大きい注文を受けて来たので、鉄道省は大喜び、前向きに汽車は就開車十六台、客車二十台、貨車三百台、

價格にして約三百万円と云ふ莫大の金額で、前年度納入汽車の所獲極めて良好で、欧米各國品を一躍、おつた。此の大進出を成せること、おつたのである。

林「前内閣の研究を基として研究する。必ずしも省の都合を前提とし、考へておられるものでは無い。拓務省廢止に就ては如何、林「拓務省の必要は如何、如何の目下研究してゐる。庶政一掃の腹案が出来た上では如何、如何の断言出来ぬ。

ALMACEN
NISHIZAKA
日本食料品輸入販売
龍田万(博)十五パーセント
信託は勉強配達迅速
西友大商店
市内アウストラリア街二〇一
U-112 (ハミマス) 三九一五

百子産教
文化住宅建築
家具製造修理その他
同年御用金取ります
山本 玄
Av. del Japon 48/19/5
U-2, 741 (Tobiano) 3/50 5

波騒大平洋

日本を繞る列国の海軍情勢早わかり(一)

海軍の策戦(續)

支那の空軍

のく奇襲戦を計画する一方に海軍中心の戦略目的を達するに此の潜水艦隊は極めて有力に活用される。河政は敵の河艦を攻撃する策を講じた。潜水艦は高力なる防衛的武器として活躍する。其は是れ日本に潜水艦が英米の主力艦隊に對する場合は有効であり、加ふるに敵の潜水艦に備へて潜水艦は最早の工ではない。尚文と不可分の大空軍がある。其は海軍に專らするものではない。極東空軍

一千枚 (その中爆撃機三百) の中から流用される。本國の四十枚の海軍用機と推定して大連ないが、海軍に月下あるものは少数に過ぎない。只この機を一九三七年以後に運搬するのは、決して便宜上ばかりで、潜水艦と航空機との日本海に飛渡し、太平洋に飛渡する。其は確定的と見せよう。

六百枚 の大半は支那沿海の防衛に充てられ、この方面の勢力は決して海軍に劣ることはない。機体と操縦とは、上海野史當時に於ては、既に航空機に劣るに過ぎない。その他は海軍に充てられ、一隊に編成し得るのだから。

英国の場合

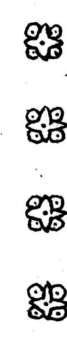
次は英國である。歐米諸國の中、英國は最大の利害を持つ英國の海軍は、大連五隻を中核とする艦隊を保持する。即ち主力大艦隊の司令官に相当する勢力を極東に集中してゐるのだから、その力は海軍に匹敵する。即ち、大連五隻を中核とする艦隊を保持する。即ち、主力大艦隊の司令官に相当する勢力を極東に集中してゐるのだから、その力は海軍に匹敵する。

空軍基地

としてこの設備は、極東大規模を示す。現在の日本には見当りない程度のものである。世界有数の完備を誇る華北の空軍基地として、青島の拡張が行はれ得ることは、シベリアの東部の攻勢を断つ結果となる。一九三六年までは、青島は防衛的限りの範圍内にとどまらざるが、いよいよ無条件に拡張される。そのための設備の完備は、今や完成

academia
de bailes
SALITA
cangallo 1279

市内カンガロ街一七九
サリタ舞踏教室



パラグアイの聯盟脱退
去る廿四より効力発生

とあるのであるが本日ハ
国外相アマミエテニナ博士
は「パラグアイの聯盟脱退
(アスンシオン廿三日)パラグアイ
は正当なる理由に基くものであり
聯盟脱退は本月廿四より効力発生
今日に至ってハ固くその方針を變更
生、愈々聯盟の維持を脱する事
せしむべき何等の理由も無い旨を明した

用発せられ
アニゴタバ

視察團を引卒し
カル農相自ら視察旅行に出発
國家的見地よりハバ
ゴニア湖の沿岸を
痛感したカルカノ農
相は、愈々ハバゴニ
ア地方の資源調査、産業商業及
ア地方の資源調査、産業商業及
社会状態、民情視察、固有地に関
する諸制度の施行状態等研究
のため、道路関係及国立公園関
係の委員、土地調査委員、振興技
師等十六名よりなる視察團を引
卒して廿二日同に重なるハバゴニ
ア地方視察旅行を遂ぐる事と
あり、廿三日午後八時半ハバゴニ
ア地方視察旅行に出発したが、右視察
團はサンカルロス、デ、バルロケエ
リ実地調査を始め漸次南方に向
かふ事にはなつてゐる。

観艦式統帥のため
フスト大統領がパレルへ

廿八日挙行の観艦式統帥のためフ
スト大統領はホルヘデラトリーレ法

日本、玖瑠通商協定
目下締結交渉進行中

(ハバナ廿三日)日本玖瑠兩國の通
商協定締結交渉は現在進行中
であるが、目下左の如き日本側の
提案をめぐり、両国代表間に折衝が
続けられてゐる。
一日本は玖瑠物産年額五十万井に
購入する事を約する。
一日本は玖瑠に対し日本品年額二
百万井を賣込む。
一右二百万井の内百万井は織物類
を以て更に尤て玖瑠政府は該織

本年一月の日亜貿易
一日本側入超百十萬円

帝國公使館は通日本年度一月に於
ける日亜貿易統計を發表した。其
に主眼は対亜國
輸出は 一九三四・七四四で昨年
より一七二・六一九四四に比
し二〇八・五八〇の増加を示し
輸入は 三〇四〇・三六四で昨年
より二四八・五五八の増加を示し
たり結局、昨年度一月の日亜貿易
は日本側入超百十萬円に達した
が本年一月は日本側入超一〇・五五
九。円となり、亞國入超とする
片(貿易)は逆転し、日亜貿易額
逐年増加の軌道を辿り
つゝあると示してゐる。

物に對し最少限度の関
税を賦課すること
兩(して) 右の通商協定
に同じ玖瑠の
輸出品者の一割では
「同協定は現在九百萬井に達する
玖瑠地米兩國の貿易統計中、北米織
物の對玖瑠輸出は影響すること甚
大なるべく、北米の自給率同附屬
品、電球、文具具等にも必然的
に有利なる及ぼすものであり、又左玖
瑠國內織物工業は顯著に從業員約
十名の失業を生じたことによる」と
の極端な悲觀的觀察を下してゐる。
因に現在日本品は最高限度の関税

Table with multiple columns listing various goods and prices, including items like rice, oil, and other commodities. Includes a note about '武市の交通中心地' and 'ブラサロカを建設'.

武市の交通中心地
ブラサロカを建設
予てよりロツカ將軍の勳績を顕彰せ
んとして朝野の名士よりなるロツカ
將軍顕彰委員会では將軍の因む
ブラサロカ建設を考慮中であつたが、
此の機会を以て武市テイアゴナル・ス
大路、ベル・サールとアルミナ街の交
点の地を以てブラサロカを設け、其處
に記念碑を建立する事に決定、通
じて實現を期してゐる。

MANCHESTER
Sastreria de
Calidad
材料は全部
外国製カシ
ミルを用ひ
ます
月賦十ヶ月
ありの便法
あり
U.T. 21- Barracas-1698
MONTES DE OCA 1783

日そのアラシの全貌を發表し政府
市当局の職員同を得たが、一般市民
しても同地は六角を以て形式し交通
上危險地を視せられたるため此の
ブラサロカ建設は交通緩和にも役立つ
で實現を期してゐる。

功成大送放界世

確かに聴いた母國の聲！
感激の在外邦人から

AKへ謝電殺到

陸連日本赤十字會は、電波に
射して正午五時から強化さ
れた日本放送協會の在野放
送はアメリカ太平洋沿岸放送
の廿五時送信機を初用して毎日午
後一時からシヤバ方面へ、午前四時
半から歐洲へ、午前六時から北米東
部及び南米へとかけて一時間それ
く種別長によつて実施されて居り
この放送開始されて以来在野放
の方々に「実によく予にこの機に
懸こへる」の事を聞いてゐたが、
母國エリの送信によるその及響
は、はかりではなく、AK海外放
送課へ「聲の聴いた母國の聲」と
感激
に覆る電文が続々と到来し
全世界へ福音の音は電波に
乗つて、の感深くされて、先づ
シンガポールの野崎總領事から「煉

東京エニスアイレス回
四月からモシク開通

(東京廿四日) 併びる國際電話、現
在我國と直連線路が出来たのは、
方面であるが、通信省は今後回
年間に十二方面世界の主要國と直
通させる方針だが、此の國際電話
が三月に入ると先づ東京大連の直
連絡出来ること、いつた

吉川六郎氏招待さる

全米國の果樹栽培家及果實輸出業
者より成る果樹聯合協會では未
だ三月一日より七日迄ネウケン直
轄地首府ネウケン市に於て第四回
果樹會議を開くこととなつたが、当
會議にはカルカ、要招はじめ同州知
事も出席、全米國の果樹栽培家及
果實輸出業、各該道會社果樹職員
等が出席し、果樹栽培及果實輸出
取締法に對する討論が行はれるが
邦人では吉川六郎氏が同會議会
長に選ばれて招待されてゐる

古庄桂藏氏結婚

本市モンテビデオ街九八四に彩色店經
営の古庄桂藏氏(五五)は、子と結婚中
で、あつた故山口喜太郎氏長女キミ
子(七七)さんと府内早平氏夫妻、西坂
男爵夫妻の媒酌にて本廿七日午後
七時半エリウイクトリア寺院に於て加
敷式で結婚式を挙げ、同夜八時か
ら日會々館で内外人面会を招待
し盛大に祝慶さる事と、いつ
た

甘利造次氏再末亞

とばかり帰郷中であつた甘利造次
氏は来る四月八日入りのラブラダ
丸で再末亞の予定、尚当地にある

古庄桂藏氏結婚

本市モンテビデオ街九八四に彩色店經
営の古庄桂藏氏(五五)は、子と結婚中
で、あつた故山口喜太郎氏長女キミ
子(七七)さんと府内早平氏夫妻、西坂
男爵夫妻の媒酌にて本廿七日午後
七時半エリウイクトリア寺院に於て加
敷式で結婚式を挙げ、同夜八時か
ら日會々館で内外人面会を招待
し盛大に祝慶さる事と、いつ
た

古庄桂藏氏結婚

本市モンテビデオ街九八四に彩色店經
営の古庄桂藏氏(五五)は、子と結婚中
で、あつた故山口喜太郎氏長女キミ
子(七七)さんと府内早平氏夫妻、西坂
男爵夫妻の媒酌にて本廿七日午後
七時半エリウイクトリア寺院に於て加
敷式で結婚式を挙げ、同夜八時か
ら日會々館で内外人面会を招待
し盛大に祝慶さる事と、いつ
た

古庄桂藏氏結婚

本市モンテビデオ街九八四に彩色店經
営の古庄桂藏氏(五五)は、子と結婚中
で、あつた故山口喜太郎氏長女キミ
子(七七)さんと府内早平氏夫妻、西坂
男爵夫妻の媒酌にて本廿七日午後
七時半エリウイクトリア寺院に於て加
敷式で結婚式を挙げ、同夜八時か
ら日會々館で内外人面会を招待
し盛大に祝慶さる事と、いつ
た

古庄桂藏氏結婚

本市モンテビデオ街九八四に彩色店經
営の古庄桂藏氏(五五)は、子と結婚中
で、あつた故山口喜太郎氏長女キミ
子(七七)さんと府内早平氏夫妻、西坂
男爵夫妻の媒酌にて本廿七日午後
七時半エリウイクトリア寺院に於て加
敷式で結婚式を挙げ、同夜八時か
ら日會々館で内外人面会を招待
し盛大に祝慶さる事と、いつ
た

古庄桂藏氏結婚

本市モンテビデオ街九八四に彩色店經
営の古庄桂藏氏(五五)は、子と結婚中
で、あつた故山口喜太郎氏長女キミ
子(七七)さんと府内早平氏夫妻、西坂
男爵夫妻の媒酌にて本廿七日午後
七時半エリウイクトリア寺院に於て加
敷式で結婚式を挙げ、同夜八時か
ら日會々館で内外人面会を招待
し盛大に祝慶さる事と、いつ
た

古庄桂藏氏結婚

本市モンテビデオ街九八四に彩色店經
営の古庄桂藏氏(五五)は、子と結婚中
で、あつた故山口喜太郎氏長女キミ
子(七七)さんと府内早平氏夫妻、西坂
男爵夫妻の媒酌にて本廿七日午後
七時半エリウイクトリア寺院に於て加
敷式で結婚式を挙げ、同夜八時か
ら日會々館で内外人面会を招待
し盛大に祝慶さる事と、いつ
た

古庄桂藏氏結婚

本市モンテビデオ街九八四に彩色店經
営の古庄桂藏氏(五五)は、子と結婚中
で、あつた故山口喜太郎氏長女キミ
子(七七)さんと府内早平氏夫妻、西坂
男爵夫妻の媒酌にて本廿七日午後
七時半エリウイクトリア寺院に於て加
敷式で結婚式を挙げ、同夜八時か
ら日會々館で内外人面会を招待
し盛大に祝慶さる事と、いつ
た

古庄桂藏氏結婚

本市モンテビデオ街九八四に彩色店經
営の古庄桂藏氏(五五)は、子と結婚中
で、あつた故山口喜太郎氏長女キミ
子(七七)さんと府内早平氏夫妻、西坂
男爵夫妻の媒酌にて本廿七日午後
七時半エリウイクトリア寺院に於て加
敷式で結婚式を挙げ、同夜八時か
ら日會々館で内外人面会を招待
し盛大に祝慶さる事と、いつ
た

古庄桂藏氏結婚

本市モンテビデオ街九八四に彩色店經
営の古庄桂藏氏(五五)は、子と結婚中
で、あつた故山口喜太郎氏長女キミ
子(七七)さんと府内早平氏夫妻、西坂
男爵夫妻の媒酌にて本廿七日午後
七時半エリウイクトリア寺院に於て加
敷式で結婚式を挙げ、同夜八時か
ら日會々館で内外人面会を招待
し盛大に祝慶さる事と、いつ
た

古庄桂藏氏結婚

本市モンテビデオ街九八四に彩色店經
営の古庄桂藏氏(五五)は、子と結婚中
で、あつた故山口喜太郎氏長女キミ
子(七七)さんと府内早平氏夫妻、西坂
男爵夫妻の媒酌にて本廿七日午後
七時半エリウイクトリア寺院に於て加
敷式で結婚式を挙げ、同夜八時か
ら日會々館で内外人面会を招待
し盛大に祝慶さる事と、いつ
た

石の水のいりぬ石鹸

無害で素晴らしい効目の「ラーウ」

墺國のクラウス博士が發明

原語でシヤボン、日本語で石鹸が、遠く十三世紀の始めオリウ油から製造されて以来化粧品として家庭生活に絶対不可欠のものが出来た存在であったが、ウイーンから、報道によれば、最近オーストリアの仁学者であるペパーデ・クラウス博士が「ラーウ」と称する代用品を製造しシヤボンもいよく化粧品に王座から降り落ちるほ

かおひ 情勢と あつた 新時代 の名称

「ラーウ」はクリーム状態の水まで要せず、洗濯する場合には洗濯物は塗つて柔かいタオルでこすれば、忍び難いものがあるといふ。更に脂肪を交ぜるとどんな洗濯にも面倒な毛皮類でも無害で完全に出る。而も従来の石鹸に比べて四倍の効目があつたといふ。純潔な國の某々金社早くも特許を申請し、その交渉を開始したといはれる。

素人娘と女学生

次はその初経験の

対象とされた女性に就いての調査では、少教の素人娘を除いてその多数を占めるものとして所謂「職業の女」(娼妓、藝妓、助産婦、女給等)にも、意外なその率からいふと寧ろ多く最高を占める所謂「素人娘」及び中等以上の教育ある「制服の女」が挙げられてゐる。即ちそのパーセンテージに就いては

悲しいが、結婚前の男女の童貞と處女の割合

その半数は既に童貞であつて、而もその相手方は?

近代婦人の社会的経済的地位の上、上にも性道徳に於いても等しく男女同等であるべきことが一部識者によつて、特に女性側には、熱心に説かれ、あるのは注目されるべきであらう。即ち男子も結婚後の生活は勿論のこと、結婚前といへども純潔を守るべしといふのがその要旨である。その吉否の論は暫らく擧ぐとして、茲に最近日本に於いての調査結果を「結婚前に於ける男子の性生法」

非童貞者の割合

右の白石町の報告

如何といふ問題に就いて、最も信頼するに足る調査をで紹介すること、しよう、これは花柳病防止の目的で、新報某所隊に於いて、医学士白石義夫氏により、市、町、村及びあらゆる職業出身の世帯、四百二名に就き能く限りの正確な調査が行はれた調査報告で、我が國では極めて稀な貴重調査とされてゐるものである。

處女の教養何ぞ

勿論、

男子は初経験後大半非童貞性行為を行つてゐるもので、またその対象となつた女性の中、所謂職業の女は都市に多く、娼妓及び学生は、町村に多いことが明かにされてゐる。

サリリマンを蝕む 奇怪なアパト病

簡易と相違するから東京や大阪を始め他の都市生活者の要求に根拠して小住宅や下宿屋に代るアパトは益々氾濫の一途を辿つてゐるが、最近これ等アパト居住者のうち「アパト病」といふべき得休の知らぬ奇病が發生し、勤めを休む者も出て一日中蒼い顔して仕事に手がつかず、遊蕩者やうにだらだらくしてゐる者等が漸増の傾

頭がボンヤリ

から特殊な悪い空気の影響によるものと推定されてゐる。

東京は日本古美術展

遺徳なからお断り

一九三九年春から四十年初頭にかけて東京ロンドンの五五美術院(ロイヤルアカデミー)全館を報告者として「二分の一の子童貞者が娼妓後、その半を求めると當り異の處女は連り合ふもの人々、思ひよ此處に救はば、時然たるべけんや」と慨嘆しうさせてゐる。

報告者として「二分の一の子童貞者が娼妓後、その半を求めると當り異の處女は連り合ふもの人々、思ひよ此處に救はば、時然たるべけんや」と慨嘆しうさせてゐる。素人娘と女学生との交情の中、アパト病は單に女に於いて中絶された天啓で、やがてその男性の結婚生活に入るものも含まれてゐると思はれるが、何れにしても結婚前の非合法的交情は、殊に女性として許容されるべき性質のものではない。

開放して日本文化を賞揚、日英親善を目的として計画された日本古美術展は、日本側の意向を以て年々未だに打電するに及びつてゐるが、十二月廿二日麻布区三軒町外務次官邸で宮内外務・文部三省府合會議を開き、前月英園から歸つた國男の報告を中心として種々協議した。

多数の國空或いは國空級美術品を海外に搬出することは現行國宝保存法の精神に照しても亦その運用技術に關しても実行不可能とみし、代案として規模縮小の提案もあつたが、前例もあつて貧弱なものは送れず遂に丁重に謝絶するといふ結果に達着。

道) ながらうお受け出来ぬ旨、外務省岡田文化事業部長から在英吉田大使を通じて英園側当局者に打電した。

Buenos Aires, Sábado 27 de Febrero 1937

SECCION CASTELLANA

Dirección: USPALLATA 981 U. T. 23-7051

El conocido crítico social y literario, Itaru Nii, en un artículo que publica la Revista Contemporánea de Tokio, titulado: Japón tal como es, describe la condición actual del Japón comparado con lo que fué. Los juicios que formula son de interés tanto para los extranjeros como para los propios japoneses. He aquí sus consideraciones principales:

Recuerda el autor lo que dijo el señor Shusei Tokuda, uno de nuestros novelistas veteranos, en un banquete que el P. E. N. Club del Japón ofrecía en honor de Mr. Elmer Rice, de Norteamérica, que puede concretarse más o menos del siguiente modo: "deseo que usted estime al Japón tal como es en realidad, en vez de hacerlo a través del "Kabuki" (teatro antiguo) el baile del "No", la ceremonia del Té y otros legados del pasado, según se acostumbran los turistas, con lo que está completamente de acuerdo, porque conceptúa que es imposible formar una idea de lo que es el Japón, sin conocer su estado actual.

No todos los japoneses están necesariamente familiarizados con las realidades de su país. Muchos de nuestros compatriotas, especialmente los avanzados en edad, no alcanzan a entender las ideas y pensamientos de la nueva generación. Hay así japoneses que ignoran al Japón de hoy exactamente lo mismo que los extranjeros. Esta falta de conocimiento de las condiciones de tiempo nuevo hace que ellos nieguen del Japón "real", para seguir cantando los elogios del pasado a costa del presente. Y con ese criterio conducen a los estudiosos extranjeros hacia la investigación de las cosas viejas. Pero esto es un procedimiento desequilibrado. La edad nueva debe poseer a la fuerza algunos méritos a la par de las fallas, y a pesar de que no se pueda esperar que lo comprendan aquéllos que no están capacitados a admitir lo que haya de bueno en la época presente.

Generalmente hablando, hay dos grupos de gentes que miran diferentemente al presente en contraste con el pasado. Unos lo hacen al soslayo, y los otros con simpatía y tratan de hallar en él mayor número de puntos fuertes. Los primeros son enemigos de lo nuevo y los últimos, sus amigos. Yo pertenezco a éstos.

Veamos, pues, las condiciones del Japón de hoy. Encontramos en él tantas cosas de ayer como las que son marcadamente distintas que llevan el sello de hoy. Algunas han sido importadas del extranjero; otras son resultados de la influencia del Occidente. El hecho justamente de que tantas de esas influencias son de origen extranjero, hace que sean, para muchos japoneses, necesariamente malos. ¿Mas, por qué ha de ser así? Los críticos contestarían tal vez que el compuesto de civilización de tantas influencias exóticas no es consistente; que estas influencias se manifiestan en la vida del pueblo, causando intranquilidad. Puede que haya alguna razón en esta contención. El Japón de hoy puede ser menos "japonés" de lo que fué, digamos, hace 20 años. Pero, acaso, no es la Inglaterra de hoy, menos "inglesa" y la América, menos "americana" que antes? Vemos el progreso incesante del standard internacional del modo de vida de los pueblos como resultante del creciente intercam-

JAPON, tal como es

bio de cultura. Tanto es así que las naciones importan cosas e ideas ajenas casi sin sentir, inconscientemente, y según observo, con poco o ningún trastorno para el equilibrio de la cultura nacional. El Japón posee, ciertamente, cosas que no llevan ninguna señal de influencia extraña, pero de ellas las tienen todos los países en común. Hoy en día todas las naciones están bañadas por la luz que ilumina la civilización del siglo XX. En todas partes del mundo se juegan los mismos deportes se ven las mismas películas cinematográficas y se escuchan las mismas músicas. Si bien esto no prueba que todo lo moderno es bueno, ello constata, sin embargo, que el Japón no es más susceptible a lo exótico que otros países.

Aún más, esto no quita que hagamos la cuestión acerca de si "los buenos tiempos de antaño" eran realmente mejores que el presente. Hagamos algunas comparaciones: En primer lugar, nuestros estudiantes universitarios del pasado y del presente. La novela es el reflejo del fenómeno social de la época. Los ejemplos del "Konjiki Yasha", la famosa obra de Koyu Ozaki, que fué uno de los novelistas más populares de la era de Meiji — los primeros 45 años del Japón moderno —: Describe la vida estudiantil con profundo conocimiento, como que él mismo ha vivido esa vida, pues fué alumno de la Universidad Imperial, aunque no terminó sus estudios allí. El héroe de la novela, Kan-ichi Hazama, siguiendo la costumbre de entonces, cae en la garras de un usurero que presta dinero a los estudiantes pobres, y desengañado en el amor se convierte en un empleado del usurero. En aquellos días cuando no había más que una sola Universidad en el Japón, los estudiantes gozaban de crédito, porque había la seguridad de que todo graduado escalaría fácilmente las funciones del gobierno o altos empleos en los bancos o empresas comerciales.

Hoy las condiciones han cambiado. Hay 46 universidades, Imperiales, Oficiales o Particulares, y la superproducción de los graduados ha hecho rebajar el valor del diploma, y no hay quien preste dinero para los pobres estudiantes a título de operación comercial. Es posible que en aquellos tiempos los estudiantes hayan sido más selectos, desde que los exámenes de ingreso eran mucho más severos porque no podían admitir a la única casa de estudios superiores, sino muy poco número de alumnos. Pero, las organizaciones, equipos y elementos de enseñanza de hoy son superiores, además de que la conducta de esos jóvenes son, bajo todo punto de vista, es mejor ahora que entonces si se puede dar fe a Ozaki.

Hay una poesía corta que traducida en prosa, dice: El monte Fuji no eran tan alto como yo creía que fuese; lo mismo podría decirse de Buda y de Confucio". El poeta quiso decir que nosotros solemos dar demasiada importancia al pasado. Se dice, por ejemplo, que Danjuro Ichi-

kawa IX, Kikugoro V, y Sadanji, el segundo, eran actores de talentos excepcionales, en tanto, que sus hijos y sucesores, las estrellas del "Kabuki" de hoy, que han seguido la misma escuela, trabajado con el mismo celo y vocación, no son apreciados como sus antecesores.

Lo dicho es suficiente para demostrar mi oposición al argumento vago con que se menosprecia el presente ante el pasado. Mas no soy tampoco defensor ciego de la cultura actual; no porque sea nuevo ha de ser necesariamente mejor o superior. Las civilizaciones, a mi juicio, son como las flores que se abren una tras otra, cada una con su tono y su fragancia peculiares. Las civilizaciones de Egipto, de Asiria, de la antigua Grecia y de Roma florecieron y se marchitaron a su turno. Esto no significa, sin embargo, que la civilización del presente sea superior en todos los sentidos. La única manera de hacer la comparación valedera entre el pasado y el presente, es la de fijar el standard del valor y de hacer el examen realístico de ambos en su relación con ese standard.

Ahora bien, ¿qué comparaciones caben entre el Japón de hoy y de ayer? Hay una cosa bien segura; que el Japón del presente es más complicado que el del pasado en todos sus aspectos. Complicación no es, naturalmente, sinónimo de superioridad. El territorio, población y el gobierno organizado, son los tres requisitos para la existencia nacional, y el Japón posee los mismos territorios que antes, los mismos habitantes en número mayor y, en cuanto al gobierno, continúa siendo reinado por los emperadores de la única línea de la familia real que viene gobernando al país desde su fundación. Los gustos y modos de vida del pueblo han sufrido, sin embargo, grandes cambios.

La mayoría de los extranjeros ven todavía al Japón romántico a través de las estampas de Hiroshige y de otros artistas de la época feudal. Pero éstos deben ser recordados que Tokio es hoy una ciudad moderna que posee casi todos los elementos de que se enorgullecen las grandes ciudades del mundo; que las estampas, el teatro Kabuki, la ceremonia del Té, el arte de arreglar flores, el baile del No, etc., cosas que valoran tanto los Occidentales no son cosas populares entre la multitud del pueblo japonés, la cual prefiere el cinema nacional en vez del teatro nacional. Las revistas y óperas, cafés dancings, son también populares en las grandes ciudades del Japón. La lucha por la "dernier cri" está de moda; la juventud quiere poseer trajes, sombreros y zapatos de última moda. Ha desaparecido casi por completo el uso del gracioso kimono entre los jóvenes "Mobo" — (derivado de "modern boy" inglés), y hasta las jóvenes, especialmente en Tokio, prefieren hoy lucir las modas de París. La influencia del cinema-radio internacional es realmente enorme.

La consecuencia de ello es que la juventud actual abarca mucho, pero no profundiza en nada, según reclaman generalmente. Los héroes de hoy no son de la clase de políticos ni de guerreros: son, pues los campeones de deportes y de los negocios, quienes son admirados no solo en el país, sino también en el mundo entero. Lo esencial es que el pueblo japonés sabe producir nuevos ti-

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Osaka Shosen Kaisha

todos los miércoles a las 19 horas.

POR  RADIO EXCELSIOR

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

!Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 o/o de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

YUKIO OZAKI

Toda la prensa metropolitana ha publicado la información relativa al discurso pronunciado en la Dieta Imperial del Japón por el diputado Yukio Ozaki, leader liberal, una de las figuras venerables del mundo político japonés. Las críticas severas formuladas ante el parlamento acerca de la política del gobierno han sido oídas por los miembros del gabinete con respetuosa atención, causando sensación en todo el Imperio. Jamás político alguno había hecho en declaraciones tan francas como las que hizo el señor Ozaki. El discurso del diputado Ozaki ha aumentado, sin duda, el sentimiento de respeto hacia la Dieta Im-

perial. El señor Ozaki es diputado desde que se estableció en el Japón el régimen parlamentario. Tiene 60 años de vida política, habiendo sido además, Intendente Municipal de la ciudad de Tokio, Ministro de Gabinete, en varias ocasiones.

X ANIVERSARIO DE LA ESCUELA JAPONESA

El domingo 21 del corriente se celebró en la Asociación Japonesa el X Aniversario de la fundación de la Escuela Japonesa anexa a la misma, acto al cual concurrieron especialmente invitados el encargado de negocios del Japón, agregado naval a la legación, presidente de la Asociación Japonesa, presidentes de otras corporaciones, representantes de los diarios nipones, secretaria del Instituto Cultural Argentino-Japonés, etcétera.

También se reunieron los padres de los alumnos de la escuela que hicieron la demostración de aprecio al director de la escuela señor Kitagawa y el señor Arimidzu, actual presidente de la Asociación, quien, siendo miembro de la Comisión Directiva fué el iniciador de la fundación de las mismas.

ESTADISTICAS DEL INTERCAMBIO ARGENTINO-JAPONES

El Centro de Comerciantes Japoneses del Ramo de Algodón, dedicados en la importación de tejidos, ha elevado un estudio al agregado comercial de la Legación del Japón, solicitando su intervención para la verificación de las cifras estadísticas del intercambio argentino-japonés que, se-

gún datos publicados por los dos gobiernos, ofrecen diferencias enormes que conviene ser aclaradas.

En efecto, si bien concuerdan las cifras relativas a la exportación Argentina al Japón, las importaciones de productos japoneses a la Argentina presentan montos demasiados dispares, como, por ejemplo, los siguientes: Importación del Japón en 1935, 60 millones de pesos, "valores reales", mientras que las cifras consignadas en las estadísticas japonesas dan las exportaciones con destino a la Argentina 28 millones de yens F. O. B. o puesto abordo, que con los gastos de fletes seguro etc., o sea Cif resultarian alrededor de 32 millones de yens, que al tipo de cambio actual puede estimarse igual que peso moneda nacional.

EL ARMAMENTO JAPONES ES DEFENSIVO

Tokio, febrero 22, Domci. — El ministro de guerra, general Sugiyama, declaró hoy en el Parlamento, que el aumento de las fuerzas japonesas en Manchuria obedece simplemente a razones de medida defensiva, dado que el aumento del ejército soviético en el Oriente que consta de 15 divisiones constituye una amenaza para la paz de la región.

EL PARAGUAY SE RETIRO DEFINITIVAMENTE DE LA LIGA DE LAS NACIONES

Asunción, febrero 20. — El ministerio de Relaciones Exteriores del Paraguay envió la notificación telegráfica a la Liga de las Naciones por la que hece saber que ese país queda definitivamente retirado de la Sociedad de las Naciones.

<p>"NAMBEI" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</p>	<p>A. HANAFUSA Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5489</p>	<p>F. KANEMATSU y Cía. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p>S. TSUJI Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p>K. ANNO The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4031</p>	<p>S. YAMADA y Cía. Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405</p>	<p>PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D</p>	<p>LA MAISON SATUMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 44-4392 Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p>H. KATO Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p>IIDA y Cía. Ltda. (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p>M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 33-2683</p>	<p>Sastrería JAPONESA Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5482</p>
<p>SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 3219</p>	<p>B. HARA y Cía. Importadores BELGRANO 1470 U. T. Rivadavia 37-6614 U. T. Mayo 38-2438</p>	<p>S. ANDO y Cía. Importadores BERNARDO DE IRIGOYEN 143 U. T. Mayo 38-1402</p>	<p>GUIA JAPONESA LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. — U. T. 31-3193.</p>
<p>KATSUDA y Cía. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313</p>	<p>CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Bmé. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782</p>	<p>JIRO HONDA y Hno. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p>CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193.</p>
<p>B. TAKINAMI Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 733 - U. T. Mayo 38-3413</p>	<p>S. YOKOBORI Representante de FUJISAKI y Cía. CANGALLO 499 3er. Piso Escr. No 21-22 - U. T. 33-9390</p>	<p>Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	<p>CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. — U. T. 33-1452.</p>
<p>I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051</p>	<p>TARO MURAI Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3189</p>	<p>K. YASUNAGA Compañía Argentina Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769</p>	<p>INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.</p>
			<p>ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. — U. T. 23-4893.</p>
			<p>COMPANIA DE VAPORES O. S. K.: Cangallo 462. — U. T. 33-1051 y 1052.</p>